

インフルエンザウイルスの 感染拡大を防止するための3つの方法

1 個人で行う対策

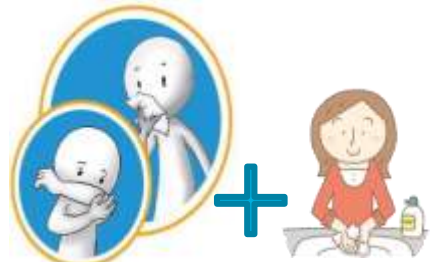
● 咳エチケット・手指衛生

咳やくしゃみをするときは、**ティッシュで口と鼻を覆い**、
使用したティッシュを捨てた後、速やかに手指衛生を行いましょ。う。
手指衛生は、石けんでよく洗い水道水で流して下さい。



● 症状のある方の自宅待機期間

学校や仕事は休み、外出はひかえましょ。う。



個人で行う
対策

環境対策

地域社会で
行う対策

2 環境対策

● 手で触れる機会の多い場所を、拭く

家庭、学校、職場を含むすべての場所を、**環境消毒用のウェットティッシュで定期的に拭く**
ことが推奨されています。

環境表面より、インフルエンザウイルスを除去することで、**感染性病原体の広がりを予防**
できる可能性があります。

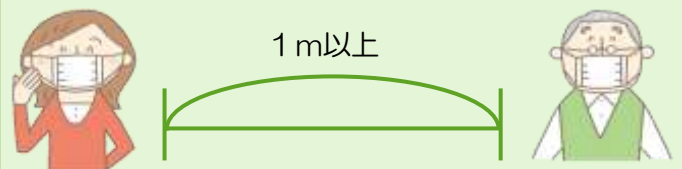
環境消毒の効果があるウェットティッシュで拭きましょう。



3 地域で行う対策

● 人と人との距離

人と人の間隔を1 m程度以上空けることで、感染
の拡大を減少することが可能です。
健康な方にも有効な方法です。



インフルエンザに限らず、感染防止には一人ひとりの正しい理解と行動が重要です。
厚生労働省や医療機関などが発信する正しい情報をもとに
感染防止行動にご協力ください。

今月の医療 脳神経外科

一過性黒内障とは？

突然、片目だけが「黒いカーテンが下りてくるように」、「白く霧がかかるように」なり、そして目が見えなくなってしまう症状が出現し、この状態が数分から長くても20分程度続いて再び元の見え方に戻る。このような症状が呈するものを一過性黒内障といいます。

眼動脈（眼に行く動脈）は、内頸動脈（頭蓋内へ行く動脈）から分岐しており、これらの血管に異常が起こり、眼に必要な血液流れなくなると上記症状が現れます（失明することもあります）。

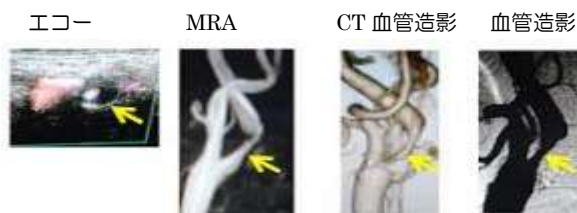
原因は？

- ・頸動脈や眼動脈（眼動脈から分枝である網膜中心動脈）の狭い所にできる血栓
- ・上記理由（高度狭窄）＋血圧低下
- ・頸動脈狭窄部からはがれた血栓が眼に行く動脈につまる



どんな検査をするの？

- ・頸動脈超音波検査（エコー検査）
- ・MRI検査
- ・造影CTA（血管造影検査）
- ・頸動脈造影検査
・・・等を行います



治療はどうするの？

- ・原因となっている頸動脈狭窄などの疾患の治療が中心になります。
- ・禁煙、運動療法、食事療法に加え、糖尿病、脂質異常症、高血圧に対する薬物治療が基本。
- ・上記に加え脳梗塞を予防するために血液の流れをよくする抗血小板剤が追加されます。
- ・頸動脈の狭窄が高度な場合には、外科的治療（頸動脈内膜剥離術や経皮血管形成術および頸動脈ステント留置術）となる場合もあります。

なお、20歳前後の若年者で上記のようなはっきりした原因がない一過性黒内障の場合、膠原病の一種である抗リン脂質抗体による可能性があり神経内科の受診が必要です。

一過性黒内障は、脳梗塞の警告症状でもあります。

たとえば、頸動脈狭窄部から剥がれた血栓が眼動脈に入らずに脳の動脈に入り完全に詰まり、血流の再開通が起こらない場合は、脳梗塞になる場合もあります。